

彼女は、心を奪って去ってゆく。



Vermeer

フェルメール

真珠の耳飾りの少女展

17世紀オランダ絵画の名品、奇跡の再来日

2026年8月21日[金]～9月27日[日] 会期中無休

開場時間：午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）

※8月28日、9月4日、9月11日、9月18日～9月27日は午後8時まで（入場は午後7時30分まで）

本展は日時指定制です。

 大阪中之島美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

ヨハネス・フェルメール 《真珠の耳飾りの少女》 1665年頃 油彩、カンヴァス 44.5 cm x 39.0 cm
Mauritshuis, The Hague
Vermeer's Girl with a Pearl Earring:
Dutch masterpieces of the 17th century



Mauritshuis

 大阪中之島美術館

 関西電力
power with heart

 KEIHAN
京阪ホールディングス

 JR

 TAKENAKA

朝日新聞社

 ABC

TOPPAN

 トヨタモビリティ新大阪

MIKIMOTO

Vermeer



ヨハネス・フェルメール

《真珠の耳飾りの少女》

1665年頃 油彩、カンヴァス 44.5×39.0 cm

大きな灰青色の瞳でこちらを振り返る《真珠の耳飾りの少女》。

暗い背景に浮かび上がる少女の顔と、東洋的な青いターバン、耳元に輝く大きな真珠により、見る者は一瞬で引き込まれる。

フェルメールが33歳の頃に描いた本作は、特定の人物ではなく性格やタイプを表現する「トローニー」と呼ばれるジャンルに属し、

理想化された表情と異国風の装いは時代を超えた神秘性を湛える。

色彩は青と黄色のみにほぼ限定されているが、青はラピスラズリから作られたウルトラマリンという非常に高価な絵具が用いられている。

わずかに数筆で描かれた真珠の輝きや、柔らかな光に包まれた少女の表情には、フェルメールの卓越した光の表現が凝縮されている。

本作は1881年のハーグでのオークションに出品されるまで広く知られていなかったが、

美術収集家デス・トンベによって購入され、彼の死後、マウリッツハイス美術館に遺贈された。

今日、この作品は「オランダのモナ・リザ」とも称され、フェルメール芸術を象徴する一作として、今なお多くの人々の想像力を掻き立てている。

17世紀オランダの名画に出会う、またとない機会—

《真珠の耳飾りの少女》は、オランダ・ハーグのマウリッツハイス美術館が誇る、世界屈指の名画です。今回の来日はマウリッツハイス美術館の改修工事による臨時休館に伴い実現することとなりました。同館のマルティネ・ゴッセルリンク館長は、「当館にとって、この『少女』の旅は、日本の皆さまに彼女を送り届けられる、おそらくは最後となるであろう特別な機会です。」と話します。

本展では、ヨハネス・フェルメール《真珠の耳飾りの少女》《ディアナとニンフたち》を始めとするマウリッツハイス美術館所蔵12作品の展示を通して、17世紀オランダの名画に出会う、またとない機会を提供します。

フェルメールの初期様式を伝える重要な作品。中央には古典神話における月の女神・ディアナ、周囲には女神に付き従うニンフ（森の精）たちが、森の空地で穏やかに過ごす様子が描かれる。画面には安らぎに満ちた穏やかな雰囲気が漂い、温かみのある色彩が特徴である。レンブラントの弟子ニコラス・マースの作品と考えられていたが、1885年の修復作業中に、偽造された署名の下から「JVMeer」というモノグラムが見つかり、フェルメールの作品であると判明した。また、1999年から2000年に行われた保存修復により、画面右上の青空は後世の加筆であり、本来は夕景を思わせる暗褐色のトーンだったことが明らかになり、本来の姿に戻された。

ヨハネス・フェルメール
《ディアナとニンフたち》
1653-1654年頃 油彩、カンヴァス 97.8×104.6 cm



ヨハネス・フェルメール (1632-1675)

17世紀オランダを代表する画家の一人であり、静謐な日常生活の情景を精緻に描いた作品で知られる。制作に関しては一枚の絵に長い時間を費やしたため、完成させた作品は多くなく、現存する作品はわずか30数点しか知られていない。画家になった当初は聖書や古典神話に基づく歴史画を描いていたが、24歳頃から室内風俗画へと転向した。マウリッツハイス美術館所蔵の《真珠の耳飾りの少女》は、フェルメール作品の中でも最も著名で世界的に広く愛される作品の一つである。

ヤン・ステーン 《老いが歌えば若きが笛吹く》

1663-1665年頃 油彩、カンヴァス 83.8×91.9 cm



レンブラント・ファン・レイン
《笑う男》
1629-1630年頃
油彩、金箔で覆った銅
15.3×12.2 cm



パウルス・ポッテル

《水に映る牛》

1648年 油彩、板 43.4×61.3cm



miffy × Vermeer



アンバサダーはオランダ生まれの絵本の主人公「ミッフィー」

フェルメールと同じオランダ生まれのミッフィーが本展のアンバサダーに決定しました。ミッフィーが誕生したのは約70年前の1955年。以来、そのシンプルで愛らしい魅力が世界中の人々を魅了してきました。同じオランダで生まれ、世界中で愛されるフェルメールの傑作《真珠の耳飾りの少女》とミッフィー。オランダを象徴するふたりが出会う、特別なコラボレーションをお楽しみに。

本展特設ショップではミッフィーと少女のコラボレーショングッズをご用意しています。

《真珠の耳飾りの少女》の姿になったオリジナルぬいぐるみも。黄色の服と、青のターバン、そして耳飾りまで細部にこだわって仕上げた衣装を身にまっています。



『葬送のフリーレン』特別コラボレーションが決定

小学館「週刊少年サンデー」で連載中、山田鐘人(原作)とアベツカサ(作画)によるファンタジー漫画『葬送のフリーレン』とのコラボが決定しました。『葬送のフリーレン』は、フェルメールが生きた中近世ヨーロッパを想起させる世界を旅する物語です。17世紀に描かれ、今なお世界中で愛される《真珠の耳飾りの少女》と、長い時を生き、旅を続けるフリーレン。アベツカサ先生が本展のためだけに、《真珠の耳飾りの少女》とフリーレンが重なりあう、特別なイラストを描き下ろしました。

本展特設ショップでは、イラストを使用したオリジナルグッズの販売を予定しています。

《真珠の耳飾りの少女》と『葬送のフリーレン』、世界を旅する2つの作品が出会う瞬間をお楽しみください。



©山田鐘人・アベツカサ・小学館

コラボが続々登場! オリジナルグッズや講演会など、本展の魅力が詰まった関連情報は公式サイトへ

本展は日時指定制です。

当日券は、前日までの販売状況に応じて空きがある場合に、館内券売機で販売します。当日券の販売状況は大阪中之島美術館公式サイトをご確認ください。

6月1日(月)より、tabiwaスペシャルツアー先行販売・チケットぴあ先行抽選受付を開始します。詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。

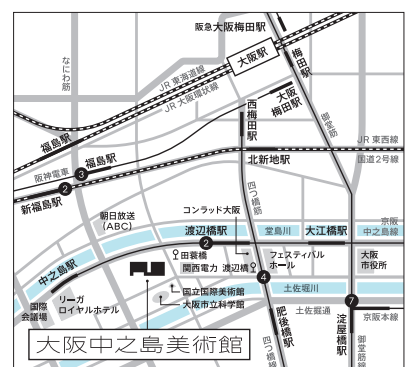
*記載内容に変更が生じる場合があります。最新の情報は展覧会公式サイトをご確認ください。

観覧料	一般	高大生	小中生
	3,000円	1,500円	500円

*税込価格。*一般団体は受付しておりません。学校団体の場合はご来場の4週間前までに学校団体見学のご案内からお申込みください。*障がい者手帳(身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳)をお持ちの方(介護者1名を含む)は当日料金の半額(要証明)。ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお買い求めください(事前予約不要)。*本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。*災害などにより臨時で休館となる場合があります。

- 主催 大阪中之島美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ
 後援 オランダ王国大使館
 特別協賛 関西電力、京阪ホールディングス、JR西日本、竹中工務店、TOPPANクロレ、トヨタモビリティ新大阪、ミキモト
 協賛 SMBCH興証券、エヌエヌ生命保険、大阪トヨタNorth、サントリーホールディングス、塩野義製薬、住友電気工業、高砂熟学工業、たけでん、ダイビル、大和ハウス工業、トヨタレンタリース新大阪、日本生命、びあ、丸一鋼管、三井住友銀行、ヤマト運輸、ロイヤルホテル
 協力 KLMオランダ航空、阪急電鉄

◎京阪:中之島線 渡辺橋駅(2番出口)より南西へ徒歩約5分◎Osaka Metro:四つ橋線 肥後橋駅(4番出口)より西へ徒歩約10分◎JR:大阪環状線 福島駅/東西線 新福島駅(2番出口)より南へ徒歩約10分 ◎阪神:福島駅より南へ徒歩約10分



展覧会公式サイト: <https://vermeer2026.exhibit.jp/> 展覧会公式X: @Vermeer2026

展覧会公式Instagram: @vermeerosaka2026

お問い合わせ: 06-4301-7285 (大阪市総合コールセンター) 受付時間 8:00-21:00 (年中無休)



公式サイトはこちら